

平成22年5月13日

各 位

会 社 名 エース取引株式会社
 代表者の役職名 代表取締役社長 田中 孝男
 (JASDAQ・コード8749)
 問い合わせ先 取締役財務部長 田中 徹
 電 話 番 号 03 - 3406 - 4649

平成22年3月期の業績(連結・個別)の差異に関するお知らせ

平成22年3月期(平成21年4月1日~平成22年3月31日)の業績(連結・個別)につきまして、平成21年3月期(平成20年4月1日~平成21年3月31日)の業績(連結・個別)との差異を下記のとおりお知らせいたします。

記

(1) 平成22年3月期連結業績の差異(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
21年3月期(A)	4,374	2,570	2,493	3,829
22年3月期(B)	4,350	796	816	657
増減額(B-A)	24	1,774	1,677	3,172
増減率	0.6%	69.0%	67.3%	82.8%

(2) 平成22年3月期個別業績の差異(平成21年4月1日~平成22年3月31日)

(単位:百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
21年3月期(A)	4,210	2,390	2,228	3,628
22年3月期(B)	3,903	741	698	656
増減額(B-A)	307	1,649	1,530	2,972
増減率	7.3%	69.0%	68.7%	81.9%

(3) 差異発生理由

当期の業績は、商品先物取引事業については米国など国際商品先物市場が堅調に推移したにもかかわらず、国内市場の出来高が金融不安の影響等により低迷を続け、個人投資家の投資スタンスも消極的に推移する状況となり、委託売買高は前年同期比14.7%減の1,261千枚、受取手数料は前年同期比0.02%減の35億100万円となりました。また外国為替取引事業については、米国経済の状況を見極めようとする動きやEU

経済、中国経済などに対するさまざまな観測が為替相場の動向に影響し、投資家にとって方向感の掴みづらい相場展開が続いたことから、当期の外国為替証拠金取引にかかる収益は、前年同期比44.0%減の3億99百万円となりました。

子会社アルバース証券株式会社による証券事業については、日経平均株価も10,000円台を回復するなど堅調に推移したことから個人投資家が積極的な投資姿勢を見せる場面もあり、年度の後半には新興国の外債などを取り扱い、受入手数料は前年同期比9.7%増の1億85百万円となりました。また、子会社の株式会社マックスマネー・インベストメントによる証券ディーリング業務で1億62百万円の収益を計上し、子会社ピバーチェ・キャピタル・マネジメント株式会社についても投資運用業務による収入で93百万円を計上しております。

当社グループの営業費用については、支店統合による営業の集中や効率的な業務の推進を図るなどグループ全体で経費の削減に努めた結果、前年同四半期累計期間比25.9%減の51億46百万円となりました。

以上の結果、営業費用の削減効果もあり、連結業績での利益指標は大幅に好転し、連結営業収益は、前年同期比0.6%減の43億50百万円、連結営業損失が7億96百万円(前年同期は連結営業損失が25億70百万円)、連結経常損失が8億16百万円(前年同期は連結経常損失が24億93百万円)、連結当期純損失は6億57百万円(前年同期は連結純損失が38億29百万円)となりました。

また、個別の業績は、当期の営業収益が、前年同期比7.3%減の39億03百万円、営業損失が7億41百万円(前年同期は営業損失が23億90百万円)、経常損失が6億98百万円(前年同期は経常損失が22億28百万円)、当期純損失は6億56百万円(前年同期は純損失が36億28百万円)となりました。

以上